



# 志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和5年度5月号

令和5年5月1日(月)

志木市立志木第二中学校

志木市館 1-3-1

TEL:048-473-2379

## その立ち振る舞いに二中学生の力を感じます

校長 三杉 紀文

あっという間に桜若葉がみずみずしくなり、校内の藤棚（若駒館の隣）では何と10年ぶりに紫と白の藤の花が同時に咲き誇っています。昨年度、本校は創立50周年を迎えたところですが、今年度も改めて特別な1年となることを教えてくれているのかもしれません。



さて、今年度も4月10日の始業式・入学式から、本格的な学校生活が始まりました。その初日から驚かされたのは、始業式が終わって入学式が始まる前の時間帯のことです。入学式に登校した新入生や保護者の案内を生徒会本部役員や代議委員の生徒が担ってくれていました。その生徒たちは、両肘を軽く曲げ、体の正面で両手を合わせて立っていたので、私にはまるでホテルマンのように見えました。私が誰かにそうするように指示を受けたのかを尋ねると、生徒たちからは「こうした方がいいかと思って、自分たちで考えてやっています。」と返ってきました。自分たちの学校に誇りをもって、自分たちで判断して行動できている点がすばらしいなど改めて生徒たちの力に感嘆させられました。

また、今年度も生活委員の生徒たちなどと一緒に、朝の登校時間に校門付近で登校してくる生徒たちとあいさつを交わしています。2・3年生は、もう慣れたものですが、1年生は登校時に校門付近に人が複数いて、戸惑いがあったかもしれません。1年生は、私が1年生の教室を見に行くと、学級の集団としては「こんにちは」としっかり挨拶をしてくれますが、登校時の個別の場面では、まだ2・3年生のようにはいかないことがあります。お互いにあいさつを交わせると、一瞬のことであっても、気持ちがつながったことで心地よい気持ちになります。この人とのつながりによる心地よさは、ぜひ全生徒が実感し、それを広げて行ってほしいと考えています。そこで私は今年度も朝から「あ」「さ」を心掛けています。すなわち、あいさつは「あ」かるく、「さ」きにしたいということです。私より先にあいさつができる生徒は、やるなあと思っています。学校だけでなく、家庭でも、地域でも、あいさつを交わすことを通してのつながり感、心地よさを広げていけたら素敵だなと思います。

実は、高い確率で私より先に、私より明るくあいさつができる生徒がいます。その度にすごいと思わずにはられません。格好いいのです。できそうでなかなかできないことをやっている姿に頼もしさを感じます。